



5



トノサマガエル

けんちゃん わーい！カエルがつかまったよ。

おじいちゃん どれどれ。おじいちゃんにも見せておくれ。

(少しの間を置いて)

おうおう、これは「トノサマガエル」じゃ。

田んぼのお殿さまを捕まえたんじやのう。

けんちゃん へえ〜！「トノサマガエル」っていうのかあ。

よし、今度こそ、ゲンゴロウを捕まえるぞ。

《アミを水に 入れる音》 ジャボーン

けんちゃん あ〜っ！なにかが、アミに入ったよ。

(不思議そうに) これはなあに？

おじいちゃん どれどれ？・・・おお、これはトンボの赤ちゃ

んよ。

けんちゃん ぼく、それ聞いたことがあるよ！

「や・び」っていうんでしょ。

おじいちゃん けんちゃんは、よく知ってるの〜！

ぬ く

【解説】

「トノサマガエル」

田んぼを代表するカエルで、イナゴなどの害虫を食べてくれたり、小型のカエルやミミズなどを食べます。

春、田んぼに水が入ると直ぐにやって来て、かえる合戦をくりひろげ、1匹の雌は1回だけ卵を産みます(卵の数を数えると産卵した雌のカエルの数がわかります)。

オタマジャクシは田んぼで水中のやわらかい植物や落ち葉、動物の死体などを食べて育ちます。また、ゲンゴロウの幼虫のエサになったりと、多くの生きものの命を支えています。

田植えが終わって約2ヶ月ほどたつと、田んぼの水を落とす「中干し」の時期を迎えます。オタマジャクシは手足が生えてカエルになるまでは水の中でしか生きることができませんから、「中干し」は大変な試練です。「ビヨセ」のある田んぼでは、そこが逃げ場となり、無事にカエルになることができます。

トノサマガエルも各地で減少著しく、特に平野部の大規模な田んぼでは姿が見られなくなってきました。

カエルを捕まえてケースに入れる時は、水の入れすぎに注意です。息つきができないと溺れ死んでしまいます。水の深さは、ケース内が湿る程度、カエルが座った時に鼻先が出るくらいにしましょう。

「ヤト」

トンボの幼虫で、「ヤンマの子」からヤゴと呼ばれるようになったと言われています。成虫と同じ肉食性で、折りたたみ式の下唇を伸ばして、オタマジャクシや小さい虫などを捕まえます。また鰓があるので、息つきをしなくても大丈夫です。

ヤゴを捕まえてケースに入れる時、小さな虫やオタマジャクシなどを一緒に入れるとヤゴに食べられてしまいます。ケースをたくさん用意して、大きさや種類ごとに分けて入れるようにしましょう。